

〈quand IMP, Q〉のはたらき

曾 我 祐 典

0. はじめに

過去の一時的状態 P または展開中の事態 P を半過去形 (IMP) で表す〈quand IMP〉が事態 Q を表す主節に先行する〈quand IMP, Q〉は⁽¹⁾、しばしば容認度が低いとされる。たとえば、西村 (2011) は、「フランス語を母語とする人たちからダメ出しされることの多い文」の例として (1) を示して「pendant que. . . , comme. . . , alors (tandis) que. . . , un jour que . . . などと半過去の組み合わせ (…) なら問題ないだけに、よけい quand の用法が不思議に感じられます」と述べている (p.172)⁽²⁾。

(1) ??*Quand je me promenais dans la forêt, j'ai rencontré mon professeur.*

そして、「時を示す quand を使う場合の原則は、quand が主節の出来事あるいは状態をきちんと位置づける安定した要素でなければならないということだ。 (…) さらに、一時的な状態も不安定です (「散歩していた」などの進行行為も同様)」と記している (pp.176-177)。

たしかに、(1) だけでなく、P が一時的状態である (2)、(3) や展開中の事態である (4)、(5) についても、インフォーマントは容認度がかなり低いと評価する⁽³⁾。

-
- (1) *lorsque* は、本稿の問題については *quand* とほぼ同じ振る舞いを示すようなので、別に論じることをしない。
- (2) インフォーマントによる容認度の評価について、「?」はやや低い、「??」はかなり低い、「*」はきわめて低いことをそれぞれ示す。
- (3) 出典を示していない発話例は、インフォーマントの協力を得てわれわれが作成した

- (2) ??*Quand elle avait le teint blafard et les traits tirés, ses parents se sont posé des questions.*
- (3) ??*Quand elle avait mal au dos, sa mère a téléphoné au kiné pour lui demander de venir.*
- (4) ??*Quand il montait en voiture, on a entendu comme une détonation.*
- (5) ??*Quand je descendais l'escalier, le plafond s'est effondré.*

しかし、(6) のような発話が文学作品に散見し、(7)、(8) のような発話についてインフォーマントが容認度が高いと評価する事実もある。

- (6) *Quand le bruit de la rame n'était encore qu'un tremblement lointain, elle s'est levée.* (P. Modiano 2002, *La petite bijou*)
- (7) *Quand elle séjournait à l'hôtel Excelsior, elle s'est fait voler son collier de perles.*
- (8) *Quand ils en discutaient au salon, elle lui a dit une chose bizarre.*

P が一時的状態または展開中の事態（以下、必要に応じて両者をまとめて「一時的事態」と言う）である場合に〈quand IMP, Q〉の容認度がかなり低いとされることがあるわけだが、それが何に由来するかは Sandfeld (1965), Olsson (1971), 青井 (1983), 岩田 (1997) など十分に解明していない。高橋 (2016) は、談話レベルの諸要素を考慮しつつ説得力のある議論を展開して多くの説明を与えてくれるが、quand の特性や P, Q が習慣・反復事態の場合などを考察対象から除いている。

そこで、本稿では、同時の関係を表すとされる四つの接続詞 *alors que*, *tandis que*, *comme*, *pendant que* を用いる場合と対比しつつ〈quand P, Q〉

↘ たものである。インフォーマントは Olivier Birmann 氏 (元関西学院大学), Jean-Paul Honoré 氏 (元 Université Paris-Est), Adriana Rico-Yokoyama 氏 (関西大学) の 3 人で、長時間の面談を通じて多くの示唆を得ることができた。

のはたらきを明らかにし⁽⁴⁾、IMP の特性を考えあわせて 〈quand IMP, Q〉をめぐる疑問の解明につとめたい。

1. P と Q のあいだの時間関係

時況節は、主節の事態 Q の時間的状況のほかに、Q の実現・持続・展開にとって少なくとも不都合でない観念的状況も表すものであり、発話者は P と Q のあいだの意味面・内容面での関係も意識している。しかし、本稿の問題に深くかかわるのは、P と Q のあいだの時間関係だと考えられる。

そこでまず、発話者が *quand* によってどのような時間関係を表すかを、四つの接続詞の場合と対比して押さえておこう。*alors que* と *tandis que* は、本稿の問題に関してはよく似た振る舞いを示すようなので、西村 (2011) に倣って、まとめてあつかうことにする。

1.1. 四つの接続詞：P の時間幅に Q が収まる

まず、*alors (tandis) que* と *comme* だが、一般に、これらを時間関係を表すために用いるのは原則として P、Q が過去の事態の場合であり、あらたまった語りの文体にかぎられる⁽⁵⁾。時況節が主節に先行する例をいくつか見よう。

- (9) Hier encore, ici, à Paris, *alors que* je me trouvais dans une crêperie dans le quartier de Montparnasse, des touristes japonais m'ont demandé un selfie.

(*L'Express* 3419 du 12 au 17 déc. 2018, 95)

-
- (4) Togeby (1982) も IMP をよく従える接続詞としてこれら四つをあげている (p.366)。(1)–(5) のような発話において *quand* の代わりに四つを用いることは、多くの場合、西村の言うように「問題ない」。
- (5) 発話者は、たいていは、*alors (tandis) que* を「Q に対立する P」を導くために、*comme* を「Q に類似する P」や「Q の理由である P」を導くために用いる。その場合、文体的制約はない。

- (10) *Alors (Tandis) que nous traversions la cour avec le chien, elle nous suivait des yeux.*
- (11) *Comme nous nous apprêtions à sortir dîner, il l'invita à se joindre à nous.* (A. Wiazemsky, *op. cit.*)

次に *pendant que* だが, おもに時間関係を表すために用いる接続詞である。P, Q が過去の事態の場合にかぎらず用い, 文体的な制約もない⁽⁶⁾。

- (12) *Pendant qu'elle avait encore toute sa tête, elle a pris l'initiative de régler cette question épineuse.*
- (13) *Pendant qu'elle ouvrait le dossier qui contenait ses quelques notes sur sa mère, ses mains tremblaient.*

これら四つの接続詞で導く P は, 状態または展開中の事態である。過去の P を表すために用いる動詞時制は, ほぼ IMP にかぎられるようだ。P と Q のあいだには, 多くの場合, 「P が持続・展開しているときに Q の実現があった」という, P の時間幅に Q の時点が含まれる関係が認められる ((9), (11), (12))。ときには, 「P が展開しているあいだ Q が展開していた」という, P の時間幅に Q の時間幅が重なる関係が認められる ((10), (13))。どちらの場合も, P の時間幅に Q が収まることになる。

1.2. quand : 三つのタイプの時間関係

quand は, 時間関係を表すために用いることがほとんどである。P, Q が過去の事態の場合にかぎらず用い, 文体的な制約もない⁽⁷⁾。四つの接続詞の場合とちがって, P は総括的にとらえる事態 (とくに短時間の出来事) のことも多く, 事態の種類は多様である。P を表すために用いる動詞時制は, IMP, PQP, PC, PS, PA などさまざまである。Q を表すために用いる時制も同様にさまざまである。P と Q のあいだの時間関係は, 四つの接続詞の場合とちが

(6) 発話者は *pendant que* を「Q に対立する P」を導くために用いることもある。

(7) 発話者はときに *quand* を「Q に対立する P」や「Q の条件となる P」を導くために用いることもある。その場合も文体的な制約はない。

って多様で、少なくとも三つのタイプを区別することができる。それぞれについて、時況節が主節に先行する例を見ていこう。

1.2.1. タイプ 1: P の時間幅に Q が収まる

まず、P の時間幅に Q が収まる関係である。(14), (15) の P は、それぞれ人生の特定期間の状態、過去において展開中の事態である。P と Q のあいだには、「P が持続または展開していたとき Q の実現があった」という関係が認められる。

(14) *Quand elle avait dix-huit ans, elle a eu son permis de conduire.*

(15) *Vers dix heures, quand nous descendions les Champs-Élysées, je me suis demandé si la nuit tomberait jamais et si ce ne serait pas une nuit blanche comme en Russie et dans les pays du Nord.*

(P. Modiano 2007, *Dans le café de la jeunesse perdue*)

(16), (17) の P は、一時的状態である⁽⁸⁾。(17) の PQP は事行が完了した状態（「いなくなっていた」）を表している⁽⁹⁾。P と Q のあいだには、「P が持続していたとき Q が持続していた」という、P の時間幅に Q の時間幅が重なる関係が認められる。

(16) *Quand il était malade, j'étais moi-même à l'étranger.*

(Borillo 1988, 89)

(17) *Quand il était parti, nous étions tristes.* (Riegel et al. 1994, 446)

P と Q のあいだには、(14), (15) では P の時間幅に Q の時点が含まれる関係が、(16), (17) では P の時間幅に Q の時間幅が重なる関係がそれぞれ認められる。どちらの場合も、P の時間幅に Q が収まることになる。これは、1.1. で四つの接続詞について見た時間関係のタイプと同じである。

(8) (16), (17) の IMP で表す P は一時的事態だが、インフォーマントは容認度が高いと評価した。

(9) Riegel et al. (1994) は P と Q のあいだに継起的関係を認めているが、本稿ではその見方をとらない。

1.2.2. タイプ 2: P の時点が Q の時間幅に含まれる

こんどは、タイプ 1 とは大きく異なる関係である。(18) – (21) がその例である。

(18) *Quand ses parents ont divorcé, elle était encore petite.*

(19) *Lundi 6 mars, quand l'assistant stagiaire vint me chercher, j'avais le teint blafard et les traits tirés.*

(A. Wiazemsky 2012, *Une année studieuse*)

(20) *Quand je me suis réveillé, Marie était partie.*

(A. Camus 1942, *L'Etranger*)

(21) *Quand Jean entra, Michel regardait la télé.* (Vogeleer 1997, 213)

(18) – (21) の P は総括的にとらえる事態 (= 出来事) である。Q の方は、(18) では人生の特定期間の状態であり、(19), (20) では一時的状態である。(20) の PQP で表す Q は、事行が完了した状態である。(21) では展開中の事態である。P と Q のあいだには、P の時点が Q の時間幅に含まれるという、タイプ 1 とは反対の関係が認められる。

1.2.3. タイプ 3: P の時点に Q の時点が重なるか密着する

三つめは、P の時点に Q の時点が重なる、または密着する関係である。(22) – (25) を見よう。

(22) *Quand il est monté en voiture, on a entendu comme une détonation.*

(23) *Quand il eut traversé la rue, il s'assit sur le bord du trottoir.*

(Borillo 1988, 84)

(24) *Quand il m'aperçut, il courut à ma rencontre et me serra dans ses bras.* (A. Wiazemsky 2012, *Une année studieuse*)

(25) *Quand il lui a posé la question, elle a répondu tout de suite.*

(22) – (25) の P も Q も短時間の出来事である。(22), (23) の場合、P の時点に Q の時点が重なる関係が認められる。P を PA で表す (23) は、P

の「横切る」という事行が完全に実現した、すなわち完了した時点と Q の実現の時点が同時であることを表している⁽¹⁰⁾。(24), (25) の場合も、P の終わりに Q の始まりが密着していて両者のあいだに時間的隔たりがないので、同時と見なすことができる。

2. quand の特性

quand も alors (tandis) que, comme, pendant que も、P と Q が同時であることを表す点は共通している。ちがいは、発話者が相手に何を伝えようとするかにあると考えられる。以下では、発話者が〈quand P, Q〉によって何を伝えようとするかについて仮説を提案し、IMP の特性を考えあわせて、P を IMP で表すことにともなう問題を考えよう。また、PS/PC の特性を考えあわせて、〈quand PS/PC, Q〉の容認度が高い理由を説明しよう。

2.1. P, Q の時間的位置

四つの接続詞の場合、1.1. で見たように、Q はたいていは P の時間幅のどこかに位置し、ときに P の時間幅全体に重なる。Q は P の時間幅の外にはみだすことがない。P の時間幅を容器に見立てれば、Q はつねに内に収まる。四つの接続詞によって発話者がおもに伝えようとするのは、この「収容関係」だと考えられる。

一方、quand で導く P は、ときにタイプ 1 のように時間幅のある事態のこともあるが、多くはタイプ 2 と 3 のように出来事で、そのかなりのものが短時間の出来事である。したがって、多くの場合、P は時間幅が問題にならず、容器に見立てることはできない。言語実態の観察からも、quand によって発話者がおもに伝えようとするのは、P, Q がいつ (=どの時期・時点) の事態であるか、すなわち P, Q の時間的位置であると考えられる。

(10) Borillo (1988) のように P の後に Q という継起的関係を認めることはできない。

実際、ある事態について、(26)、(27)のように時間的位置を問題にする場合や(28)のように位置を教える場合は、インフォーマントによれば、*quand* は容認度が高く、*alors (tandis) que* は容認度がやや低く、*comme* は容認度がきわめて低い。*pendant que* は容認度が高いことがあるが、ある種の収容関係を伝える意図に発話が適合するためだと考えられる。

- (26) *Je ne me souviens plus très bien à quel moment on lui a offert ce chien. Probablement quand/?alors (tandis) que/*comme/??pendant qu'elle était écolière.*
- (27) *C'est quand/?alors (tandis) que/*comme/??pendant que je vivais dans ce quartier que j'ai vu une étoile filante.*
- (28) *Quand le bureau a-t-il été cambriolé ?*
*- Quand/?Alors (Tandis) que/*Comme/pendant que le gardien dormait.*

(26) - (28) から言えるのは、事態の位置を伝える意図に *quand* は適合するが、*alors (tandis) que*、*comme* は適合しないということである。*pendant que* もその意図には適合しない。容認度が高いとされるのは特殊な収容関係を伝える場合である⁽¹¹⁾。

ここで、主節が時況節に先行する発話もいくつか見ておきたい。時況節の事態 P は、(29)では短時間の出来事、(30)では人生の特定期間の状態、(31)では一時的状態、(32)では展開中の事態である。

- (29) *Il vit un guépard quand/*alors (tandis) qu'/*comme/*pendant qu'il ouvrit la porte.*
- (30) *Nous l'avons eu comme professeur quand/alors (tandis) que/??comme/pendant que nous étions en terminale.*
- (31) *Elle les aida beaucoup quand/alors (tandis) qu'/?comme/pendant qu'ils étaient en chômage.*

(11) *pendant que* の特性については、紙幅の制約から本稿では論じない。

(32) Mamie descendit *quand/alors (tandis) que/?comme/??pendant que* Léa et son frère *prenaient* leur petit déjeuner dans la cuisine.

四つの接続詞であるが、Pが時間幅のある事態である(30)–(32)で、*alors (tandis) que*は容認されるが、*comme*は容認度が低い。*pendant que*は、PとQの意味・内容の面での関係によって容認度が高いこともかなり低いこともある。

主節が時況節に先行する〈Q quand P〉の場合、発話者がおもに伝えようとするのは「Qがある、Pのある位置に」ということだと考えられる。発話者は、文頭のQについて、先行文脈や発話場面の諸要素を手がかりに相手がどの位置の事態であるかと考えられるように配慮している。発話者は、それだけでは十分でないと感じてより精細な位置情報を伝えようとして〈quand P〉をつづけていると考えられる。

2.2. 〈quand P, Q〉に関する仮説とIMPのはたらき

上で見たことから、一般に、時況節が主節に先行する発話の場合、発話者はまず〈quand P〉によってPの時間的位置を示し、そこにQがあることを表すと言える。言い換えると、「Pがかれこれの位置にあって、そこにQがある」ということを伝えようとして〈quand P, Q〉を構成すると考えられる。

Pが過去の事態である場合に発話者が何のためにどのような〈quand P, Q〉を構成するかは、(33)のように示すことができる。

(33) Pが過去の事態である場合の〈quand P, Q〉に関する仮説

発話者が〈quand P, Q〉によっておもに伝えようとするのは、「Pがあった時間的位置にQがあった」ということである。Pは、時間的位置が相手に分かると思う事態である。

ここでIMPのはたらきについて述べておこう。一般に、発話者は発話時点を中心とする現在という広がりにいるという意識をもっている。そして、その意識を保ったまま、なんらかのきっかけで、ある過去の場面を想起してそこにいる気持になることがある。そして、その場面にある事態をIMPで表すこと

がある。IMP は、基本的に発話者がある過去の場面にいる気持になっているとき、そこにある事態を表すために用いる時制である⁽¹²⁾。

〈quand IMP, Q〉の発話者は、ある過去の場面にある P を IMP で表しているわけである。相手は、先行文脈などから手がかりが得られなければ、発話者が想起しているのがどの過去の場面か分からず、したがって、P の位置が分からない。

alors (tandis) que, comme, pendant que の場合、発話者がおもに伝えようとするのは、P と Q のあいだの収容関係であって、時間的位置ではない。したがって、IMP で表す P の位置が相手に分からなくても問題でない。過去の一時的状態や展開中の事態を IMP で表す発話者が多くの場合に容認されるのは、それらが発話者の収容関係を伝える意図に適合していると評価されるからである。

2.3. P を PS, PC で表す場合

〈quand P, Q〉の P を表すためにもっともよく用いる動詞時制は PS と PC であろう。そのような発話は、インフォーマントも一般に容認度が高いと評価する。そのことと (33) の仮説との関係を見ておこう。

(34) のような 〈quand PS, Q〉の発話者は、まず語りの世界の出来事 P を PS で表し、Q をその世界の時間の流れにおいて P の位置にある事態として表している。また、(35) のような 〈quand PC, Q〉の発話者は、発話時点から振り返ってとらえる過去の出来事 P を PC で表し、Q を P の位置にある事態として表している。

(34) *Quand il la vit, elle descendait les premières marches de l'escalier (...).* (Le Clésio 1963, *Le procès-verbal*, in Olsson 1971, 81)

(35) *Quand je suis monté en taxi pour filer, j'ai vu la voiture de mon père qui arrivait en trombe.*

(12) IMP の基本的なはたらきについては、曾我 (2015) を参照。

先行文脈も発話場面についての情報も欠く (34), (35) だけでは P の位置は不明である。しかし、発話者は相手が先行文脈や発話場面の様子を手がかりに P の位置が分かるよう配慮するものである。どちらの場合も、P は (33) に適合することになる。

また、PS, PC で表す P は総括的にとらえた事態であり、輪郭がはっきりしていて、Q の位置をとらえる基準点になるだけの明確さをそなえている。〈quand PS/PC, Q〉は、(33) に示す発話者の意図に適合することになる。

2.1. で見た (29) - (32) は、主節 Q が時況節 P に先行する発話であった。P が一時的状態である (31) と展開中の事態である (32) を含め、〈Q quand IMP〉の容認度は高いと評価される。そのような発話の場合、発話者は、Q のある過去の場面を想起して、そこにある事態として P を IMP で表す。相手は、過去の場面の時間的位置が分かり、したがって P の位置が分かる。すなわち、(33) の仮説に適合することになる。

3. 容認される 〈quand IMP, Q〉

いうまでもなく、よく用いられる 〈quand IMP, Q〉もある。代表的なものは、P が習慣・反復事態または歴史・人生の特定期間の事態である発話である。それら二種類がともに (33) の仮説に適合していることを確認しておこう。

3.1. P が習慣・反復事態である 〈quand IMP, Q〉

まず、P が習慣・反復事態である発話だが、〈quand IMP, Q〉の中でもっとも頻度が高いと言われている。(36) - (38) がその例である。

(36) Geneviève Delame était toujours la première arrivée, et quand j'entrais dans le café, je la voyais assise à la même table (...)

(P. Modiano 2017, *Souvenirs dormants*)

(37) (老いても妻や娘と散歩するのを日課にしていた祖父について)

Quand il regagnait la maison avec Idiss et Charlotte, son pas était toujours plus lent. (R. Badinter 2018, *Idiss*)

(38) *Quand il faisait trop chaud, elle (= la chatte) allait dormir dans les fraîcheurs des chais.* (A. Wiazemsky 2017, *Un saint homme*)

(36) – (38) の P は繰り返し実現した事態 p_1, p_2, \dots, p_n の集合であり, Q は繰り返し実現した事態 q_1, q_2, \dots, q_n の集合である⁽¹³⁾。 p_1 と q_1, p_2 と q_2, \dots, p_n と q_n は同時である。個々の事態の集合である P は一般にかなりの時間幅をもっていて, Q もまったく同じ時間幅をもっている。発話者は, そのような P と Q が同時であることを *quand* によって表す。すなわち, P があつた時間的位置に Q があつたことを 〈quand P, Q〉によって伝えようとしていて, (33) の仮説どおりである。

P が習慣・反復事態である 〈quand IMP, Q〉の場合は, 相手に P と Q の位置を伝えることを発話者がそれほど重視していない可能性がある。それでも, 発話者は唐突に (36) – (38) のような発話を構成したりはせず, 先行文脈において過去のなんらかの時期をあらかじめ話題にするものである。すなわち, 発話者はかなりの時間幅をもつ過去の場面を想起して, そこにある P を IMP で表す。相手は, 先行文脈のおかげで P がどの位置の事態であるか分かる。すなわち, P が習慣・反復事態である 〈quand IMP, Q〉は (33) に適合することになる。

3.2. P が歴史や人生の特定期間の事態である 〈quand IMP, Q〉

次に, P が歴史や人生の特定期間の事態である発話だが, これも頻度が高いと言われている。(39) は P が歴史の特定期間の事態の例であり, (40), (41) は (14), (30) と同じく P が人生の特定期間の事態の例である。

(39) *Quand Singapour était sous l'occupation japonaise, la vie des Chinois se caractérisait par la pénurie et par la répression.*

(13) p_1, p_2, \dots, p_n は, (36), (37) では出来事, (38) では一時的状態である。

- (40) *Quand Stéphanie était enfant, sa mère, Louise, gardait les bébés chez elle.* (L. Slimani 2016, *Chanson douce*)
- (41) *Quand il était étudiant, il lui est arrivé d'assister à une conférence du neuropsychiatre Boris Cyrulnik.*

発話者は、唐突に(39)のような発話を構成したりはしない。原則として、Pに言及するまでに歴史のなんらかの時代・事件などを話題にし、一般にかなりの時間幅をもつ過去の場面を想起しているものである。そして、その場面にある事態として、つまり過去の特定期間の事態としてPをとらえてIMPで表している。歴史書などであれば、相手(=読み手)が先行文脈によってPの位置について知識を得ていることが期待できる。また、Pが1940年代の特定期間の事態であることをあらかじめ相手が知っていることが期待できる場合もある。すなわち、(39)のような発話は、(33)に適合していることになる。

同じようなことが、(40)、(41)についても言える。発話者は、誰であるか相手が見当のつかない人物について、唐突に(40)、(41)のような発話を構成したりはしない。あらかじめ話題になるなりして誰であるか相手が分かるようになっていく人物について、一般にかなりの時間幅をもつ過去の場面を想起しているものである。そして、その場面にある事態として、つまりその人物の人生のある特定期間の事態としてPをとらえてIMPで表している。その人物のことを知っている相手には、Pの位置の見当がつく。すなわち、(40)、(41)のような発話も、(33)に適合している。

一般に、歴史や人生の特定期間の事態Pは、始まりと終わりが前後の期間から区別できる程度にははっきりしている。したがって、Pは輪郭がはっきりした事態ととらえられる。

4. Pが一時的事態である場合の〈quand IMP, Q〉

さて、Pが過去の一時的状態または展開中の事態である場合の〈quand IMP, Q〉である。容認度がかかなり低いとされるのが何によるか、これまで見

てきたことを踏まえて考えよう。そして、そのような発話も、(33)に示した仮説に適合するように条件を整えれば容認度が高まることをたしかめよう。

4.1. 容認度がかなり低い〈quand IMP, Q〉

本稿のはじめに、容認度が低いとされる〈quand IMP, Q〉の例として(1)–(5)を示した。それらは発話場面についての情報も先行文脈も欠いていて、相手はPの時間的位置をとらえることができない。言い換えると、発話者は想起している過去の場面にあるPをIMPで表しているわけだが、相手は手がかりを欠いているためにPがいつのどの場面の事態か分からず、したがってPの時間的位置が分からない。すなわち、(1)–(5)は「Pは、時間的位置が相手に分かると思う事態である」という(33)の仮説に反する。

(1)–(5)には、もう一つ問題がある。Pは、持続中・展開中(始まっているがいつ終わるか不明)で茫洋としていて輪郭がはっきりせず、Qの位置をとらえる基準点になるだけの明確さを欠いている。こうして、Pが一時的事態であるときは、Pの位置によってQの位置をとらえることができないことになる。すなわち、quandを用いていながらPとQの位置を伝えることができないので容認度が低いことになる。

(1)–(5)と同じような例として(42)–(44)も見ておこう。インフォーマントは容認度がかなり低いと評価するが、それは(1)–(5)の場合と同じ理由によると考えられる。

(42) ??*Quand elle franchissait le seuil de sa chambre, elle entendit qu'on l'appelait.*

(43) ??*Quand je passais dans la rue, une tuile m'est tombée sur la tête.*

(44) ??*Quand elle traversait la cour, un vigile lui a crié de s'arrêter.*

インフォーマントが(1)–(5)、(42)–(44)について容認度がかなり低いと評価するのは、結局のところ、それらが(33)に抵触すると感じられるためである。

もちろん、発話者が一時的状態 P または展開中の事態 P の時間幅に Q が収まるという収容関係を伝えようとすることもある。そのときは、*alors (tandis) que, comme, pendant que* で導く時況節が主節に先行する発話も容認される。P, Q の位置を伝えようとする意図がないので、P の位置が不明であっても問題でない。P が一時的事態である場合にこれら四つの接続詞を用いる発話が容認されることがよくあるのは、そのためである。

4.2. 容認度が高まる要因

P が過去の一時的状態または展開中の事態である (1) - (5), (42) - (44) のような〈quand IMP, Q〉であっても、P の時間的位置が相手に分かる条件が整えば、つまり (33) の仮説に適合するようになれば、容認度が高まるはずである。条件が整う要因として、少なくとも発話場面、相手の関与、時間的副詞句、先行文脈の四つが考えられる。実際に容認度が高まることをたしかめよう。

4.2.1. 発話場面

ときに、〈quand IMP, Q〉を聞いた相手が P の位置をとらえることができるような発話場面が想定できることがある。

たとえば (4) については、「社長が本社ビルの玄関前で公用車に乗り込むところに発話者 (= 警備員) が駆け寄るが、社長の車はそのまま発進する。それを見て玄関から飛び出してきた社員の質問に発話者が答える」というような場面が想定できる。

- (4) - *Qu'est-ce qui s'est passé ?*
 - *Quand il montait en voiture, on a entendu comme une détonation.*

また (5) については、「老朽家屋からとび出してきた発話者が、通りかかった知り合いの質問に答える」というような場面が想定できる。

- (5) - *Qu'est-ce qui s'est passé ?*

– *Quand je descendais l’escalier, le plafond s’est effondré.*

さらに (43) については、「頭にけがをして薬局に飛び込んだ発話者が、薬剤師の質問に答える」というような場面が想定できる。

(43’) – *Qu’est-ce qui s’est passé ?*

– *Quand je passais dans la rue, une tuile m’est tombée sur la tête.*

インフォーマントによれば、(4’), (5’), (43’) は、それぞれ想定した場面における発話として容認度が高い。これらの場合、発話者は、相手の質問をきっかけに過去の場面を想起してそこにある P を IMP で表し、P があつた時間的位置に Q があつたことを伝えている。相手は、質問を発する前からとらえてきた諸要素を手がかりにして、P が対話の直前の事態であることを理解する。

また、P は実現したばかりの出来事であり、輪郭がかなりはっきりしていて、Q の位置をとらえる基準点になるだけの明確さをそなえていると考えられる。

4.2.2. 相手の関与

こんどは、(1) – (5), (42) – (44) のすべてについて、P を相手に関与した事態に変えてみよう。すると、新たな〈quand IMP, Q〉をインフォーマントは容認するようになる。

(1)b. *Souviens-toi. Quand, toi et moi, on se promenait dans la forêt, on a rencontré notre professeur.*

(2)b. *Tu as peut-être oublié mais quand tu avais le teint blafard et les traits tirés, tes parents se sont posés des questions.*

(3)b. *Tu sais, quand tu avais mal au dos, ta mère a téléphoné au kiné pour lui demander de venir.*

(4)b. *Quand vous montiez en voiture, on a entendu comme une détonation, vous n’avez rien remarqué ?*

(5)b. *C’est vrai ? Quand tu descendais l’escalier, le plafond s’est effon-*

dré ?

(42)b. C'est toi-même qui me l'as dit : *quand* tu franchissais le seuil de ta chambre, tu as entendu qu'on t'appelait.

(43)b. C'est vrai ? *Quand* tu passais dans la rue, une tuile t'est tombée sur la tête ?

(44)b. Oui, vous me l'avez dit : *quand* vous traversiez la cour, un vigile vous a crié de vous arrêter.

P は相手が立ち会った事態または相手が事行主体だった事態だから、P の時間的位置を当然、相手は知っている。これらの〈quand IMP, Q〉は、(33)に適合することになる。

また、相手が関与した P は、相手にとって輪郭がはっきりしていて Q の位置をとらえる基準点になるだけの明確さをそなえていると考えられる。

4.2.3. 時間的副詞句

〈quand IMP, Q〉の文頭に適当な「時間的位置を表す副詞句」を置くと、インフォーマントは容認度が高いと評価するようになる。そのことは (1) - (5), (42) - (44) のすべてについて言えるが、ここでは例を三つだけ見ておこう。

(3)c. Le lendemain de cet incident, *quand* elle avait mal au dos, sa mère a téléphoné au kiné pour lui demander de venir.

(42)c. Cinq minutes après, *quand* elle franchissait le seuil de sa chambre, elle entendit qu'on l'appelait.

(43)c. Tout à l'heure, *quand* je passais dans la rue, une tuile m'est tombée sur la tête.

発話者は、副詞句で表す時期・時点にあった場面を想起して、そこにある P を IMP で表している。文頭の副詞句によって時期・時点を表した発話者は、〈quand IMP〉によってあらたに P の時間的位置（しばしば、副詞句で表す時期・時点より精細な時間的位置）を表している。そして、P があった時間的

位置に Q があったことを伝えている。発話者が想起している過去の場面の位置が副詞句のおかげで分かるので、相手は P の位置が分かる。こうして、発話は (33) の仮説に適合することになる。

これらの発話の場合も、P は時間幅の見当がついて輪郭がかなりはっきりし、Q の位置をとらえる基準点になるだけの明確さをそなえていると考えられる。

4.2.4. 先行文脈

(1) – (5), (42) – (44) のうちのいくつかについて適当な先行文脈を設けると、インフォーマントはそれらを容認するようになる。

- (1)d. Il y a eu un congrès de philosophie à Fontainebleau pendant le week-end. Le dimanche après-midi on était libres et on en a profité pour explorer la région : le château, les bords de Seine, la forêt, bien sûr. *Quand* je me promenais dans la forêt, j'ai rencontré mon professeur.
- (4)d. Devant la mairie il a salué tout le monde. *Quand* il montait en voiture, on a entendu comme une détonation.
- (5)d. J'ai décidé de quitter l'hôtel tout de suite. J'ai pris mes valises et *quand* je descendais l'escalier, le plafond s'est effondré.
- (42)d. Les derniers invités partis, la maison était redevenue calme. L'aube approchait. Elle monta à l'étage pour se reposer. *Quand* elle franchissait le seuil de sa chambre, elle entendit qu'on l'appelait.
- (44)d. Elle s'est aperçue qu'elle avait oublié son agenda sur le bureau du notaire et a fait demi-tour. Elle a regagné l'immeuble quelques minutes plus tard. *Quand* elle traversait la cour, un vigile lui a crié de s'arrêter.

発話者は、先行文脈によって現実の世界または語りの世界のある時期・時点

の状態・出来事などを表している。そして、その状態・出来事の全部または一部のある過去の場面を想起して、そこにある P を IMP で表している。先行文脈によって時期・時点を表した発話者は、〈quand IMP〉によってあらたに P の時間的位置（しばしば、先行文脈で表す時期・時点より精細な時間的位置）を表している。そして、P があった時間的位置に Q があったことを伝えている。発話者が想起している過去の場面の位置が先行文脈のおかげで見当がつくので、相手は P の位置が分かる。こうして、発話は (33) の仮説に適合することになる。

これらの発話の場合も、P は時間幅の見当がついて輪郭がかなりはっきりし、Q の位置をとらえる基準点になるだけの明確さをそなえていると考えられる。

5. おわりに

本稿では、P が過去の一時的状態または展開中の事態である場合に 〈quand IMP, Q〉の容認度が低いとされる理由を探った。alors (tandis) que, comme, pendant que と対比しつつ quand の特性の解明につとめ、P が過去の事態である場合に、一般に発話者が何のためにどのような 〈quand P, Q〉を構成するかに関して、(33) のような仮説を提案した。

(33) P が過去の事態である場合の 〈quand P, Q〉に関する仮説

発話者が 〈quand P, Q〉によっておもに伝えようとするのは、「P があった時間的位置に Q があった」ということである。P は、時間的位置が相手に分かると思う事態である。

そして、この仮説に動詞時制の特性を考えあわせて、P が一時的事態である 〈quand IMP, Q〉の容認度が低い理由を説明した。すなわち、発話者は、なんらかのきっかけで想起した過去の場面にいる気持になってそこにある P を IMP で表すと考えられるが、相手は、どの場面か見当がつかないために P の位置が分からない。また、P は持続中・展開中で輪郭が茫洋としていて、Q

の位置をとらえる基準点となるだけの明確さを欠く。(33)に適合しないことになる。

quandのはたらきについても pendant que ほかの接続詞のはたらきについても、まだ不明な点が多い。それを解明するのが次の課題である。

主要参考文献

- 青井明 (1983) 「“Quand～” と「～とき」について」川本茂雄編『日・仏語の対照言語学的研究』9-20.
- Borillo, A. (1988) «Quelques remarques sur quand connecteur temporel», *Langue française* 77, 71-91.
- 井元秀剛 (2017) 『中級フランス語 時制の謎を解く』, 白水社.
- 岩田早苗 (1997) 「フランス語の“Quand+imparfait” に関して」『関西フランス語フランス文学』3, 67-75.
- Le Goffic, P. (1993) *Grammaire de la phrase française*, Hachette.
- 西村牧夫 (2011) 『中級フランス語 よみとく文法』, 白水社.
- Olsson, L. (1971) *Etudes sur l'emploi des temps dans les propositions introduites par quand et lorsque et dans les propositions qui les complètent en français contemporain*, Univ. d'Uppsala.
- Riegel, M., J.-C. Pellat & R. Rioul (1994) *Grammaire méthodique du français*, PUF.
- Sandfeld, Kr. (1977) *Syntaxe du français contemporain, Les propositions subordonnées*, Droz.
- 曾我祐典 (2015) 「過去のことを表すフランス語時制」『人文論究』645, 関西学院大学人文学会, 183-201.
- 曾我祐典 (2018) 「フランス語の半過去形と非完了アスペクト」『人文論究』68-1, 関西学院大学人文学会, 209-228.
- 高橋克欣 (2016) 『「こと」の認識「とき」の表現 フランス語の quand 節と半過去』, 京都大学学術出版会.
- Togeby (1982) *Grammaire française*, t.II, Akademisk Forlag, Univ. de Copenhague.
- Vogeleer, S (1998) «Quand inverse», *Revue québécoise de linguistique* 26, 79-101.